注文書

書　店　印

注文　　冊

新刊委託

文芸社

日本古代青銅器文化と陰陽道

碓井（うすい）洸（ひろし）・著

ISBN4-8355-0130-6 C0095 ¥1400E

定価
（本体 1,400円＋税）

文芸社●2000年3月の新刊

日本古代青銅器文化と陰陽道

—荒神谷から黒塚まで—

碓井 洸・著

陰陽道、魔方陣、二十八宿、そして円周率—。
それぞれが物語る数の神秘と青銅器との
関係を解明した新説「青銅器陰陽道祭祀説」。

——日本古代国家成立の謎に迫る力作、
日本版『神々の指紋』——

本書の内容

第一部　出雲荒神谷遺跡出土銅剣と陰陽道
第二部　神戸市桜ヶ丘遺跡出土銅鐸絵画（伝香川鐸を含む）と陰陽道
第三部　西遠江滝峯の谷出土銅鐸と陰陽道
第四部　陰陽道とフラクタル理論
第五部　黒塚古墳出土三角縁神獣鏡と陰陽道
第六部　円周率とフラクタル理論

四六判・上製・300頁　定価 1400円（税別）

文芸社●東京都文京区後楽2-23-12 TEL.03-3814-2455 FAX.03-3814-2566

『週刊読書人』2001.7.27

大胆ながら十分な説得力

雄井　洸著

日本古代青銅器文化と陰陽道

荒神谷から黒塚まで

〈歴史〉

一九八四年夏、島根県の荒神谷遺跡で三五八本の銅剣が、翌年には銅鐸六個と銅矛一六本が一挙に出土した。数の多さに加えて、それまで銅剣・銅矛と銅鐸は別の文化圏とされてきたものが、一緒に発掘されたことの驚きも大きかった。

なぜ当時としては最も高価な貴重品である青銅製品を埋納したのか。何らかの強い宗教的観念を込めた行為ではないのか。著者は、四列に整然と並べられた三五八本の銅剣が偶数と奇数の交互に並べられていることに着目する。すなわち奇数は陽、偶数は陰とする古代中国伝来の陰陽道の考え方が根底にあること、さらに一種の数秘術ともいえる魔法陣、月が天空を一周する周期を二八に区分した二十八宿の考え方、そして算出された数字が五桁まで円周率（π＝三・一四一六）に一致している事実を発見する。

今から二千年も昔の紀元前後のころ、すなわち弥生時代に円周率五桁、九桁、一四桁を正確に知っていた人々がいたこと、それを銅剣の本数という具体的な形で完璧に表現していた事実の発見は、当時の日本の文化水準が世界のトップレベルにあったことを意味するのだ。この荒神谷遺跡だけでは説得力はない。著者は黒塚遺跡など他の青銅器を大量に出土した多数の遺跡の出土品も分析し、同様の陰陽道との密接な関係を裏付けていく。一か所の遺跡だけの偶然の一致ではないのだ。さらに銅鐸に刻み込まれた絵画の図柄にも陰陽道との関係が明らかにされる。

かつて著者は『邪馬台国は大和である―四国ルート論』（近代文芸社刊）を刊行しているが、青銅器の分布からも邪馬台国は大和説が証明できる。すなわち邪馬台国を盟主とする倭国連合の基本理念は陰陽道であり、卑弥呼の「衆を惑わす鬼道」の実体も陰陽道をベースとするものだとしている。弥生時代の西日本を中心に陰陽道に基づいた青銅器文化が花開いていたこと、その高度な青銅器文化を担っていたのは豪族である物部系のグループであり、後に女王・卑弥呼を擁立して邪馬台国を建国したのもこの物部系のグループだとしている。

この大胆ながら十分な可能性を持つ仮説だが、今後は本書で取り上げられていない九州を中心とする数々の遺跡の分析を深めれば、著者の「青銅器陰陽道祭祀説」は一層の説得力を持つに違いない。

46判・300頁・1400円

4-8355-0130-6

サンデー毎日　2000.4.30

☆　☆

♥日本古代国家成立の謎に迫る力作『日本古代青銅器文化と陰陽道』好評発売中

弥生時代の西日本に花開いた青銅器文化を陰陽道から論証した、独創性に富んだ意欲的な研究書が刊行されました。

それが『日本古代青銅器文化と陰陽道―荒神谷から黒塚まで―』（雄井洸著・文芸社刊）。内容は日本古代に円周率の考え方がすでにあったことを論じ、最後にフラクタル理論によって円周率の謎を解明するなど、古代史ファンならずとも、興味深く読み進めることの出来る好著です。

相次ぐ遺跡等の発見から古代史ブームが再燃している昨今にピッタリの本といえるでしょう。

四六判・上製・300頁定価（税別）1400円。

毎日新聞　2000.5.3

日本古代青銅器文化と陰陽道―荒神谷から黒塚まで―

雄井　洸著

青銅器文化を陰陽道から論証する。まず銅剣358本が出た出雲荒神谷遺跡をみる。4列埋納のナゾを偶数・奇数の陰陽道の考えで数量分析し九星五行を実証。二十八宿との関係を論じる中から円周率の5ケタが埋納に隠されていたことを発見。ついに黒塚出土33枚の三角縁神獣鏡には28ケタの円周率があると論断！

青銅器陰陽道祭事説を説く。

函館新聞　2000.4.23

読書

▼日本古代青銅器文化と陰陽道―荒神谷から黒塚まで

弥生時代の西日本に花咲いた青銅器文化を陰陽道から論証した意欲的な研究書

＝写真。

まず初めに、銅剣358本などが出土した出雲荒神谷遺跡が取り上げられており、いまだに謎（なぞ）とされている4列に埋納されていた銅剣の意味を、偶数・奇数という陰陽道の考え方から数量分析することで、九星五行という陰陽の考え方で埋納されていたことを実証する。

さらに、28宿との関係を論ずる中から円周率の5桁（けた）が銅剣埋納に隠されていたことを発見。ここから円周率と青銅器の関係について、他の遺跡から出土した青銅器で見ていく中で、ついには古墳時代の黒塚古墳から出土した33枚の三角縁神獣鏡には28桁の円周率があることを証明する。

こうして日本古代に円周率の考え方が既にあったことを論じ、最後にフラクタル理論によって円周率の謎の解明を試みている。

（文芸社・1400円）

財界　48-10（2000.10）

今週の新刊本

日本古代青銅器文化と陰陽道

雄井洸著

弥生時代の西日本に花開いた青銅器文化を、陰陽地道から論証した独創性に富んだ意欲的な研究書。

（文芸社・一、四〇〇円）